

2017年度  
日本語  
(問題)

<H29112181>

注意事項

- 一 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 二 問題は2～7ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 三 解答はすべて解答用紙の所定欄に、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 四 受験番号および氏名は、試験が開始されてから、解答用紙の所定欄に正確に正しいに記入すること（左の記入例参照）。所定欄以外に受験番号・氏名を書いてはならない。なお、解答用紙が複数枚ある場合には、それぞれの所定欄に記入すること。
- 五 受験番号の記入にあたっては、左の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に正しいに記入すること。読みづらい数字は、採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

(記入例)

58001番



| 万 | 千 | 百 | 十 | 一 |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 8 | 0 | 0 | 1 |

(数字見本)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

- 六 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 七 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き、解答用紙を裏返しにすること。
- 八 いかなる場合でも解答用紙は必ず提出すること。
- 九 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

— 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

アリストテレスは人間の最も①優れた能力である知性を発揮することを、人間にとつて最高の幸福であり、最大の善であるとしたが、その②aを、何か別のものを追い求めるのではなく、それ自体が最も快適であり、それ自体の③故に愛される行為であるという点に求め、その自足したあり方を「スコレー」という言葉で言い表した。この言葉は、多くの場合、「閑暇」と訳されるが、ただ単に時間があり、④閑であるということではない。それ自体が⑤bであるものを、ゆつくり時間をかけて楽しむということ、つまり、実利に結びつくとか、結びつかないとかいう近視眼的な立場に立つのではなく、事柄の本来の姿を、あるいは普遍的な真理をどこまでも追究していくことを意味する。

しかし、近年、大学はそのような普遍的な真理を、あるいは事柄の本来の姿を時間をかけて探求するという場所ではなくなり⑥cある。短期間で目に見える成果を出すことが求められるようになってきたからである。短期間で成果を出すことが難しい人文科学系の学部に対しては風当たりが強くなってきている。学部の改廃⑦d求めるような声が出てきている。

しかし、人文科学系の諸学問、いわゆる人文学が果たしてきた役割は決して小さくはない。⑧e、きわめて大きな役割を果たしてきたし、現代においても大きな役割を⑨担っていると考えられる。そのことを、少し、歴史をふり返りながら考えてみたい。

ヨーロッパにおいて大学が作られたのは十二世紀であるが、それ以降、大学の基礎的な研究と教育を担ってきたのは、

いわゆる自由学芸 (liberal arts) であつた。

この自由学芸の⑩fを高く評価したのが、イタリア・ルネサンスの人文主義者たちであつた。ルネサンスを代表する思想家ペトラルカの表現を借りて言えば、人間が動物性を脱ぎ捨て、人間性をまとうことによつて、⑪「単なる人間から人間的な人間になる」こと、そして人間として完成することをルネサンスの人文主義者たちは目指した。そして単なる人間から人間的な人間になるために重視されたのが「フマニタス」であつた。フマニタスは「人間的な人間であること」、⑫g「人間性」を意味すると同時に、「人間的教養」をも意味する言葉であつた。そしてフマニタスを可能にするものとして⑬hされたのが自由学芸であつた。

中世の大学において神学部・法学部・医学部という上級学部のための基礎学という役割を担った自由学芸は、十九世紀に入つて近代的な総合大学が形づくられるとともにドイツでいえば、ギムナジウムと、神学部などと並ぶ独立の学部としての哲学部に引き継がれていった。そして⑭i哲学部から自然科学の⑮pが独立していき、そのあとに残つた哲学部で講じられた哲学や文学、歴史学が、現在、人文学 (humanities) という名前で呼ばれている。

人文学が果たしてきた役割はきわめて多岐にわたり、それを一言で表現することは難しいが、⑯j「空間的に、あるいは時間的に異なった文化、異なったものの考え方、異なった価値観へと人々の目を開き、そのようなものを理解する想像力と思维的力を培ってきた」と言うことができるのではないだろうか。

そのことを具体的な例を通して示してみたい。十六世紀フランスの代表的な哲学者であつたモンテーニュの名著『エセー (随想録)』の中に「人食い人たちについて」というちよつと変つた——現代の感覚では相当に問題な——タイトルの文章が収められている。そこでモンテーニュは、未開の国の人々がフランスにやつてきて、その壮麗な町並みやきらびやかな文化を目の当たりにしたときの様子を描いている。彼らはパリの町並みの壮麗さに驚きながらも、他方、どうしても⑰kできないことが二つあると語つたという話をモンテーニュは紹介している。一つは大勢の恰幅かっぴくのよい大人たちが一人の子供 (そのとき十二歳であつたフランス王シャルル九世を指す) にひたすら⑱フクジュウふくじゅうしている姿であり、もう一つは、豊かな暮らしをする人々がいる一方で、その他の人々が、——それを彼らは「半身」と呼んだとモンテーニュは記している——貧困と飢えで骨と皮となつて⑲いる⑳i、他の「半身」が何もしないことであつた。

モンテーニュは未開の人々が抱いたこの㉑コンワクを紹介するとともに、フランスが置かれている状況、つまり、裏切りや圧制、残虐な行為が日常茶飯事になつて⑲いるフランスの現状を㉒顧みて、野蛮さのあらゆる面を彼らをはるかに超え

ている我々は、彼らを決して野蛮と呼ぶことはできないと記している。ここには異なったものの見方に驚き、それに

問 するモンテニユの柔軟な精神が脈打っている。このような精神 n 人文学が培ってきたものと言えるのではないだろうか。人文学は、自己の中に閉じこもりがちになる我々の心を外に向かって開き、異なったものの見方に触れさせ、他者に対する共感の心と、自らを顧みる目を養ってきたのである。

そういう意味で人文学は基本的に他に開かれたものである。自己自身の文化の枠組みの中では見えないもの、つまり異なったものの見方や世界観に目を向け、自分のものの見方や考え方を根底から揺さぶり、自分自身のものの見方を固定しているくさびを抜くという o を果たしてきた。

そのように他の文化や他のものの見方に触れることによって、我々は我々の文化をより豊かなものにしてきたし、同時に、異他的なものとの共存を p にする基盤を⑩グレイセイしてきた。そしてそれを支えてきたのが人文学であったと言えるであろう。

今、世界はグローバル化の波に洗われている。それによって人々の q が経済的な利益追求に r 向けられるようになったことも大きな問題であるが、なりふりかまわない利益追求や激しい競争は、富める国と貧しい国、富める層と貧しい層の激しい対立、社会の中の様々な集団に対する s や差別、他を排斥することによって自らのアイデンティティを保持しようとする排他的ナショナリズム、攻撃的な原理主義などを生み出している。集団と集団、民族と民族、宗教と宗教、国家と国家の軋轢や対立が t ないほどに深く強いものになっている。

そのような状況の中でまず求められるのは、改めて⑪タヨウな文化や価値に目を向け、相互に理解しあうことではないだろうか。自分の文化や宗教の中に閉じこもるのではなく、自己を他に開き、他を理解することが今ほど求められていることはない。人文学は、従来からそのような役割を果たし、そのことを通してそれぞれの文化を豊かにしてきたが、いままさにそのような役割が重要になってきていると言える。そのような地道な努力を通して u 、現代社会が⑫チヨクメンしている困難な問題は v されないであろう。

人間が「人間的な人間になろうとする」限り、その人間性を⑬支える人間的教養は求められ続けるであろうし、現代のように相互理解が困難な時代であるからこそ、人文学が果たす意義は w 大きいと確信している。

藤田正勝「人文科学を学び、研究する意義はどこに」による。

問一 傍線部①②③④⑤⑥⑦⑧の漢字の読みを平仮名で解答欄に書きなさい。

問二 空欄 a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v に入るものとして最も適切なものをそれぞれ次の

アからの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。(同じものを二回以上使わないこと。)

ア 意義 イ 可能 ウ 関心 エ 目的 オ 役割 カ 理由

問三 空欄 c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v に入るものとして最も適切なものをそれぞれ次の

アからの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。(同じものを二回以上使わないこと。)

ア こそ イ さえ ウ しか エ つつ オ のに カのみ

問四 空欄 e f g h i j k l m n o p q r s t u v に入るものとして最も適切なものをそれぞれ次の

アからの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。(同じものを二回以上使わないこと。)

ア いっそう イ かつて ウ たえば エ つまり オ むしろ カ やがて

問五 空欄 

|   |
|---|
| h |
|---|

・

|   |
|---|
| k |
|---|

・

|   |
|---|
| m |
|---|

・

|   |
|---|
| s |
|---|

・

|   |
|---|
| v |
|---|

には漢字二字の語が入ります。それぞれについて、以下の意味を参考にしうえで、文脈に即して適切な語を考え、その語を漢字で解答欄に書きなさい。

h 大切なものとして扱うこと。

k なぜそうなのか、よくわかること。

m 他の人の考えをその通りだと思うこと。

s 公正でない、かたよった考え方。

v 問題を適切に処理すること。

問六 傍線部⑤の内容をわかりやすく説明しなさい。(文中の「人間性」「人間的」「フマニタス」という語を用いないで、自分で考えて説明すること。)

問七 傍線部⑥⑦⑧⑩⑪⑫の片仮名を漢字に直して解答欄に書きなさい。

二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

少年時代が終わり、若者の時代に入りかけると、奇妙な変化が起こってくる。初潮や声変わり、体格の変化、ひげや陰毛はえてくる。「大人」へのなりかけと言えは聞こえがよいけれど、そういう変化は身体が生理的に①カッテにやってしまう変化であって、それはじつはとつても「動物的な変化」である。

ところでそういう時期にもう一つの奇妙な変化に私たちは②見舞われる。それをどういうふうの説明すればいいのか、**a** 言い当てられる言葉が見つからないのだが、思い切って言ってしまうなら、「わたしのかたち」に目覚める変化とでもいえるだろうか。「わたしのかたち」というのは変な言い方なのだが、違うふうに言えば、「人のかたち」への③目覚めというふうに言えるだろうか。これはじつに奇妙な感覚なのだ。心理学や哲学で、「自意識」とか「自己意識」などと呼ばれてきたものに当たるのだが、そういうふうに言ってしまうと、

**b** お行儀よく言いすぎる感じがして似合わない気がする。

**c** 誰でもそうだと思うのだが、中学に入ってしまったら、朝、学校へ行く前に**d** 鏡の前で髪を④トノエたりすることに時間をかけるようになる。教室の中に絵に描いたようにふんわりと分けた髪をしてくるクラスメイトを見つけると、いつも羨望のまなざしで見えていたことを私もよく覚えていて。そういうあり方を「自意識」とか「自己意識」とか言うんだよ、と言われそう。たしかにそこでは鏡に⑤映った自分の姿が気になっているのだが、そういう「自分」というもののへの注意というだけではなく、何かしら「かたち」としてあるわたし、うまく言えないのだが「ちゃんとしたかたちのわたし」というようなもののへの関心が生まれてきているのである。そんな関心は、小学生のころにはなかった関心である。

そういう関心の⑥トクチョウは、「自分」とか「自己」というほうにあるのではなく、「かたち」と呼ばれるもののほうにあると私は感じてきていた。「かたち」が気になりはじめているのである。これをとつても奇妙な関心と私は言うのだが、なぜこの関心が奇妙なのか。それは、「ちゃんとしたかたち」という意識の⑦コンティに、今までなら思いもしなかった「人のかたち」というものが気になりはじめる、ということがあったからである。

「人のかたち」「人としてのかたち」、そんなものは、私たちが人として生まれている限り、当然のこととして実現**A** と言われるかも知れない。しかし、それはそうではないのではない。私たちは人生のある時点において、「わたし」が「人の形」としてあるということに、あらためて気づくときがあるのではない。それが少年時代の終わり、若者時代のはじまる頃ではないか。

こういう「人のかたち」への関心が「奇妙」だと私が考えるのは、じつはこの関心の裏に、「人がひとでなくなるかたち」への関心が同時に進行しているはずだと私はずっと感じてきたからだ。今まで多くの人がそれなりに感じてきていたものの、正面から論じることをさけてきたこの「狼になる」というテーマを、あらためて考えてみたいのである。

このテーマをつきつめると、どこかで「人とは何か」「人間とは何か」「人間とはどこまで動物なのか」というようなことを問わなければならない。これは思われる以上に⑧空恐ろしい問いかけなのである。

私たちのなかの**B** 性、それは私たちが自分を「人間」だと思っているときは絶対に見えないものである。私たちが「人間」であるときには、私たちは「動物」ではあり得ないし、**C** そういうふうに見ることはできない。簡単に「私たちもまた動物です」と言うようなひとがいる。**D** ことではないのだ。「私たちが動物である」というようなことを言うことがいかに危険なことを言っているか、その人はわかっていないのだ。

私たちが同時に動物であることは、本当には理解できないことなのだ。そのことをはっきりと自覚していた人はそんなにいない。バタイユは「人間が同時に動物である」ということ自体を「深淵」という言葉で呼んでいた。

動物は私の眼前に、私を魅惑して惹きつけるような、そして私にとって慣れ親しい深淵を開く。この深淵を、ある意味で私は知っている。それは私の深淵だからである。また同時にそれは私にとって最も速い⑨側方に隠されているものであり、まさしく私から⑩ノガれ去るものという意味である深淵の名にふさわしいものである（バタイユ『宗教の理論』湯浅博雄訳 人文書院）

村瀬学『なぜ大人になれないのか』による。

問八 傍線部①④⑥⑦⑩の片仮名を漢字に直して解答欄に書きなさい。

問九 傍線部②③⑤⑧⑨の漢字の読みを平仮名で解答欄に書きなさい。

問十 空欄 a・b・c・d の中に入る言葉として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。（同じものを二回以上使わないこと。）

ア たとえば    イ 何やら    ウ やたらと    エ びったり

問十一 空欄 A に入る表現として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア できているものではないか  
イ できてはいないものではないか  
ウ できないでいるものではないか  
エ できていないものであろうか  
オ できているものであろうか

問十二 空欄 B に入る最も適切な語を、次のア～オの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア 文化    イ 科学    ウ 人間    エ 発達    オ 動物

問十三 空欄 C に入る言葉として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア かりそめにも  
イ 意外にも  
ウ さいわいにも  
エ とにかくにも

問十四 空欄 D に入る言葉として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア こんな    イ そんな    ウ あんな    エ どんな

問十五 次の中で、文章の趣旨に合うものには○印を、合わないものには×印を、それぞれ解答欄に書きなさい。

ア 少年時代が終わるころにある変化とは「大人」の体になるという変化である。これは、「人のかたち」への目覚めということと言い換えたものである。

イ 中学校に入ってしばらくすると、登校前に鏡の前で髪形をととのえたりすることに時間をかける。これは「ちやんとしたかたち」への関心と言える。

ウ 若者の時代の初めの、「人のかたち」への関心と、「人が人でなくなるかたち」への関心とは、別のものである。同時に進行することはない。

エ 私たちが人間であり、かつ、同時に動物であることは、当然の知識であり、その意味については、誰もがしっかりと理解できている。

オ バタイユは、人間が同時に動物であることを「深淵」と呼び、慣れ親しいものでもあると同時に、遠くに隠されているものでもあると言っている。

〔以下余白〕

|    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|----|----|
| 問七 | 問六 | 問五 | 問四 | 問三 | 問二 | 問一 |   |   |   |    |    |
| ⑩  | ⑥  | s  | h  | t  | e  | r  | c | p | a | ④  | ①  |
|    |    |    |    | w  | g  | u  | d | q | b | って | れた |
| ⑪  | ⑦  | v  | k  |    | i  |    | l |   | f | みて | ②  |
|    |    |    |    | j  |    | n  |   | o |   |    |    |
| ⑫  | ⑧  | m  |    |    |    |    |   |   |   | える | ③  |

|           |   |   |   |   |   |
|-----------|---|---|---|---|---|
| H29112181 |   |   |   |   |   |
| 受験番号      | 万 | 千 | 百 | 十 | 一 |
| カ氏名       |   |   |   |   |   |
| 氏名        |   |   |   |   |   |

(所定欄以外に番号・氏名を書いてはならない)

2017年度

日本語

(解答用紙)

No. 1 / 2  
採点欄

|  |
|--|
|  |
|--|

(この線で二つ折りにして書きなさい)

|     |     |     |     |     |    |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|
| 問十五 | 問十四 | 問十三 | 問十二 | 問十一 | 問十 | 問九  | 問八  |
| ア   |     |     |     |     | a  | ⑧   | ①   |
|     |     |     |     |     |    |     |     |
| イ   |     |     |     |     | b  | われる | に   |
|     |     |     |     |     |    |     |     |
| ウ   |     |     |     |     | c  | ③   | ④   |
|     |     |     |     |     |    | め   | えたり |
| エ   |     |     |     |     | d  |     |     |
|     |     |     |     |     |    | ⑤   | ⑥   |
| オ   |     |     |     |     |    | った  |     |

2017年度

日本語

(解答用紙)

No. 2 / 2  
採点欄

|  |
|--|
|  |
|--|